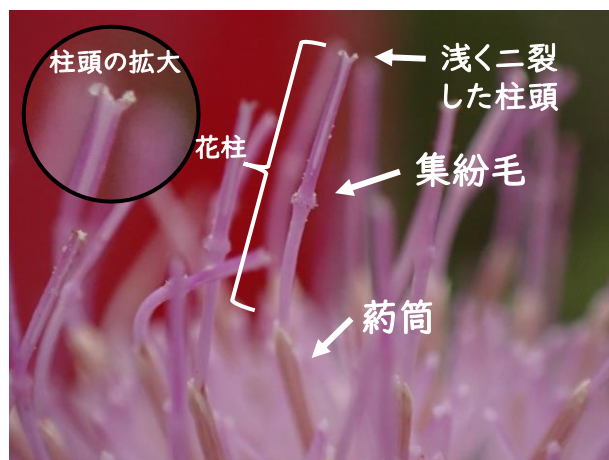


植物多様性センターの「アザミの花の仕組み」

春と秋の時期に花をよく見かけるキク科のアザミ類。花をよく見てみると面白い構造をしています。アザミの花には舌状花はなく筒状花のみで構成されています。この筒状花は自家受粉を防ぐために先に花粉を出し、後から柱頭が開きます。蜜を吸いに来た昆虫が、花の上で動くことによって、花柱を包んでいる葯筒が下にさがります。葯筒が下がると花柱にある集紛毛という膨らみに花粉が引っ掛かり、花粉が出てくる、という仕組みになっています。



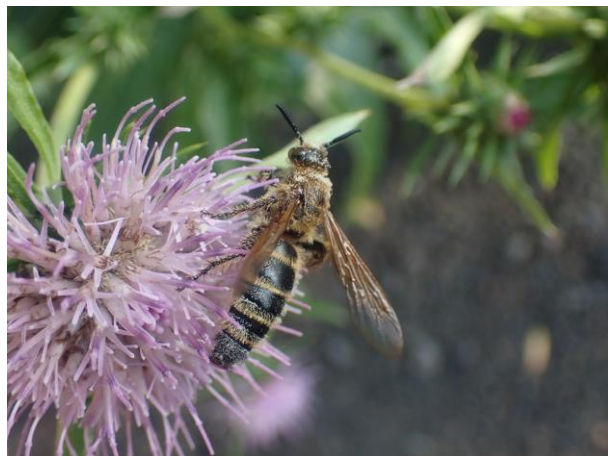
花粉がつまった葯筒が少し下がって花粉が出始めている



葯筒から花粉が出た後に柱頭が開くことで自家受粉を防ぐ



葯筒の下につく花系：弓なりに曲がることで葯筒が下がる



ハチジョウアザミに来た花粉まみれのキンケハラナガツチバチ